



# 12月忘年例会

Newカマーズ委員会担当による平成13年度12月忘年例会が12月18日(火)、ホテルサンルート米子にて行われた。例会に先立ち、出席者全員で先日急逝された鶴田武久OBに対する黙祷を行い、故人のご冥福をお祈りした。

まず始めに岩田会長の挨拶があった。冒頭、本年のスローガンでもある原点への回帰、中央会魂・モラル・個性の確立の重要性について言及され、それを踏まえた半期の総評として、各委員会の白熱した活動が見受けられてたいへん喜んでいる、と全会員に対する労いも述べられた。最後に、勝つか負けるかしかない商売で、勝ち残るための人づくりをしたいと来年の抱負で締めくくられた。

次に来賓を代表して手島敏弘OBが挨拶をされた。その中で、立派に半年を終えた岩田丸がこれから迎えるであろう大きな時化(しけ)を知恵と努力で乗り越えて、大きく成長した姿で必ず港に帰って来い、と激励された。

来賓の商工組合中央金庫米子支店支店長・宮成秀男様の音頭による乾杯に続き、新入会員のバッチ授与と今年度新入会員挨拶が行われ、新入会員各自が元気よく自己紹介をした。

しばしの歓談後、例会はアトラクションへと進み、Newカマーズ委員会の徳中会員と野口会員司会による「中央会・何でも鑑定団」が行われた。鑑定士には米子北高校教諭の後藤文平先生をお迎えし、本家さながらに進行された。トップバッテリー安部利夫OBの依頼品「火鉢」は、本人評価額30万円に対して鑑定額は50万円。続く土井直前会長の依頼品「青銅器」は、本人評価額30万円に対して鑑定額は60万円であった。鑑定額を聞いて喜ぶふたりの依頼人の様子に会場の興味(?)は次第にある一点に移る。3人目として登場の釜田会員の依頼品は8万円で購入したという「曼茶羅」。強気の本人評価額69万円に対し、後藤先生は1万円の鑑定を下し会場は爆笑の渦に。最後に、中津尾会員の依頼品「抹茶碗」は島根が生んだ大芸術家河井寛次郎作とのことで会場の期待を集めた。真贋の区別もつかない会場は固唾を飲むばかりで、慎重に鑑定をする先生を静かに見守った。結局、箱は違うものの茶碗自体は本物と判明し、金直してあるので評価額は50万円とのこと。もしも無傷だったら200万円とのことだった。

アトラクションは第二弾に移り、12月4日に米子市民余芸大会に参加した会員有志によるバンド演奏が行われ、会場を歓喜の渦に巻き込んだのであった。総勢11人によるバンド「T. S. C. B」は4曲演奏とアンコール1曲をサービスしてくれた。岩田会長の飛び入りによる「君の瞳は1万ボルト」の熱唱が演奏を締めくくった。会場総立ちの、まさに中央会がひとつとなった忘年例会であった。

最後は石黒豊OBのご発声で一本締めをし、興奮覚めやらぬままその幕を閉じた。

(広報：野川誠司)



フォークギターで初めて弾いた曲はたしか「いちご白書をもう一度」。松山千春・アリス・さだまさし・長渕剛、フォークソングからニューミュージックといわれたあの頃、かっこよくギターを弾きたくて一生懸命だった。こんな話をすると誰でも昔を懐かしんでひとつやふたつ語りたくなるんじゃないかな？

バンドを結成した浜田副会長のねらいはそういうところだったように思う。結果的にはよくまあ短期間であれだけの事が出来たものだと私テキにも満足感“大”である。なんせ本格的に練習できる体制がつくれたのは、本番まであと1ヶ月を切ってたし、気持ちだけ先走りして忘れかけていた楽器の演奏術？がうまくいかない。「あれっ？こんなはずじゃ…」そんな中からみんな頑張った。ほとんど耳コピでやったということ、経験のある人なら大変さも分かってくれましょうか？ それと誰でも出来そうなボーカル、これがみんな苦労した。タイミングとか、ハモルとか、しかもダンサー掛け持ち！

週2回の練習が本番が近づくと3回に。日曜日も割いて練習した。

本番当日緊張をほぐす為に全員アルコールに勇気付けてもらった。(約1名へべれけ…)

本番直前、ほど良い緊張感の中、幕裏で「さっくぞー！」「やるぞー」「よっしゃ！」全員で掛け声の嵐！！本番中はマイクを飛ばす芸まで見せてくれた某会員までいて余裕のステージ！？終了後はカ・ク・ベ・ツの充実感…その日の二次会は会長も一緒に超盛り上がりの大カラオケ大会！でした。

「いやー、音楽って本当にいいもんですね。」

(経営：八百屋)

# 12月度委員会報告

<b>きずな委員会</b> 平成13年12月10日(月) 於：岩崎館 内容/①1月の担当例会詳細打合せ ②忘年委員会	出席者/9名
<b>情報メディア委員会</b> 平成13年12月10日(月) 於：岩崎館 内容/忘年委員会	出席者/13名
<b>モラル委員会</b> 平成13年12月14日(金) 於：海潮園 内容/①11月例会の反省 ②忘年委員会	出席者/8名
<b>経営委員会</b> 平成13年12月11日(火) 於：岩崎館 内容/①2月担当例会の打合せ ②忘年委員会	出席者/11名

<b>Newカマーズ委員会</b> 平成13年12月13日(木) 於：ホテルサンルート米子 内容/12月担当忘年例会について打合せ 政治行政委員会	出席者/22名
<b>広報委員会</b> 平成13年12月5日(水) 於：海潮園 内容/①3月担当例会打合せ ②忘年委員会	出席者/13名
<b>総務委員会</b> 平成13年12月5日(水) 於：デイルラウンジ夢 内容/①ハンサム12月号担当割 ②知的所有権小冊子発行に向けて ③忘年会	出席者/11名
<b>総務委員会</b> 平成13年12月4日(火) 於：海潮園 内容/忘年委員会	出席者/14名

## 知らない損する「IPわぁ〜ると」①②③

今回も先月に引き続き、10月例会で皆様から寄せられたご質問に対する奥村隆一アドバイザーの回答を掲載したいと思います。

**Q1：中小企業経営者であれば少なくともこの程度の意識は持っている欲しい(この程度は知っていて欲しい)ということがありますか？**

(回答)  
・特許など知的所有権は財産権です。たとえ、知らなかったとしても他人の特許などを無断で使用すると、大変な額の賠償を求められることになります。従って事業を行う前には必ず事前調査が必要であることを先ずご認識ください。

**Q2：中小企業レベルでみて、首都圏と地方(特に鳥取県)の知的所有権の認識の差はありますか？**

(回答)  
・最近では、知的所有権に対する認識が大変高まってきていると感じています。しかし、首都圏に本社がある企業では、特許などの業務は本社が行っているため地方では関心が薄い場合が多いように感じます。

**Q3：特許や登録商標の出願は自分でできますか？**

(回答)  
・ご自分で出願することができます。詳しくは発明協会に特許出願

アドバイザーがいますので、その者にご相談ください。

**Q4：特許電子図書館を自分で検索して、問題とならないと判断して使用した後、実は問題があった場合はどうなりますか？**

(回答)  
・検索の精度を高めることが重要です。そのために検索アドバイザーがアドバイスをいたします。なお、検索は未公開中の特許を調べることができないことを考えても100%の保証が得られるものではないことをご認識ください。

**Q5：特許電子図書館を利用しようとする専門用語が多く、自分が欲しい情報までたどり着けない場合がありますが、初心者を利用するポイント・コツを教えてください。**

(回答)  
・ひとつの方法として、ヘルプ機能を活用していただくことです。それでも分からない場合は、特許検索アドバイザーに電話・FAX・Eメール等でご連絡ください。

特許検索アドバイザー奥村隆一先生の連絡先

TEL 0857-52-6728 (発明協会 鳥取県支部内)

FAX 0857-52-6673 (発明協会 鳥取県支部内)

Eメール roku@toriton.or.jp

(広報：植田寿雄)

## 会員一同 御侍史

### 「トリアスロン検討会を終えて」

はじめに：

今回の答申に至るまで、2期(土井直前会長、岩田会長)に渡る時間を頂きましたこと、ならびに、沢山の方々にご理解いただき検討会を進行できたことに感謝いたします。

検討会の経緯：

中央会とトリアスロンとの関わり合いはあまりにも長く、その間の歴史を紐解くことはあえて省かせていただきます。現在、トリアスロン組織の中で中央会は機動力のある最も重要な団体であります。ボランティア部はボランティアの行動隊形を支援し、マラソン部は競技上最終種目となるコースを管理しています。また、河端A S・境港A Sの両A Sはマラソンコースで一番ボランティア活動量の多い場所を担っています。ですから、大会運営には中央会はなくしてはならない存在であり、それ故に会員の責任と費やす時間をしっかりと協議して、会員のできうる限りの納得を得なくてはなりません。そのために検討会が生まれたのです。

中央会活動内のボランティアの意味：

考えるに我々が中央会に入会した大きな要因のひとつに自己鍛錬の場を求めたはずでした。利益追求という戦いを日々挑んでいる我々ですが、戦いに疲れた心を癒し、活力を与えたり価値観を

見つめ直し、信ずる目的のひとつになって明日からの英気を養うのがボランティアだとしたら、地域貢献と個人の利益とが一致するのではないのでしょうか？トリアスロンは感動した者が主役です。我々も主役になりたいものです。

中央会が果たすべき役割：

先程述べた自己鍛錬の場はもちろんですが、トリアスロンは県外への情報発信、それから県外から来る選手・家族・応援団等が観光客としてリピートできる県内イベントの中で全国規模、継続性そして実績ともに他に類を見ません。経済団体である我々が労力だけで終わらず、得意とする英知・友愛・団結を駆使して他団体と共にトリアスロン実行委員会を支援し、行政を動かして全国的メジャーな大会である事をもっとPR出来たら痛快ではありませんか！

終わりに：

最後に堀田実行委員長のもと、缶コーヒー1本で5時間も激論を戦わせた思い出ある検討会の皆さん、お疲れ様！同僚諸君、来年はもっと遊び心を持って燃えましょう。

事務局 伯耆のイベント問屋のご隠居慎右衛門 拝